

硫黄島の火山活動解説資料（平成 27 年 5 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山性地震はやや少ない状態で経過しています。GNSS¹⁾連続観測によると、地殻変動は 2014 年 12 月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015 年 3 月頃から隆起速度が上がっています。その他の観測データに特段の異常は認められません。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

平成19年12月1日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。また、2012年4月27日以降の火山活動に伴い、2012年4月29日に火山現象に関する海上警報を発表しました。その後警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気、地熱、噴出物等表面現象の状況（図1、図3）

【ミリオンダラーホール（旧噴火口）の状況】（図1）

ミリオンダラーホール（旧噴火口）では、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生していますが、海上自衛隊からの情報提供によると今期間の噴火の発生はありません。

【遠望カメラによる状況】（図3）

阿蘇台東遠望カメラ（阿蘇台陥没孔の東北東約 900m）による観測では、島西部の阿蘇台陥没孔からの噴気は少ない状態で、噴気の高さは概ね 10m 以下で経過しています。

島北西部の井戸ヶ浜では、22日14時58分と17時33分及び24日18時25分と18時41分に最大100mの水蒸気の噴出を観測しました。

・地震活動の状況（図4、図5）

今期間、火山性地震はやや少ない状態で経過しています。

1日0時～8時にかけて調和・単色型の火山性微動が10回発生し、継続時間の積算は約21分25秒でした。また、15日、20日、27日に1回ずつ調和・単色型の火山性微動を観測しています。この火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに異常は認められていません。

・地殻変動の状況（図6～8）

GNSS¹⁾連続観測によると、地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し2015年3月頃から隆起速度が上がっていましたが、5月下旬頃から停滞しています。また、2015年4月中旬頃から西向きの変動速度が上がっています。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年 6 月分）は平成 27 年 7 月 8 日に発表する予定です。

この資料は、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

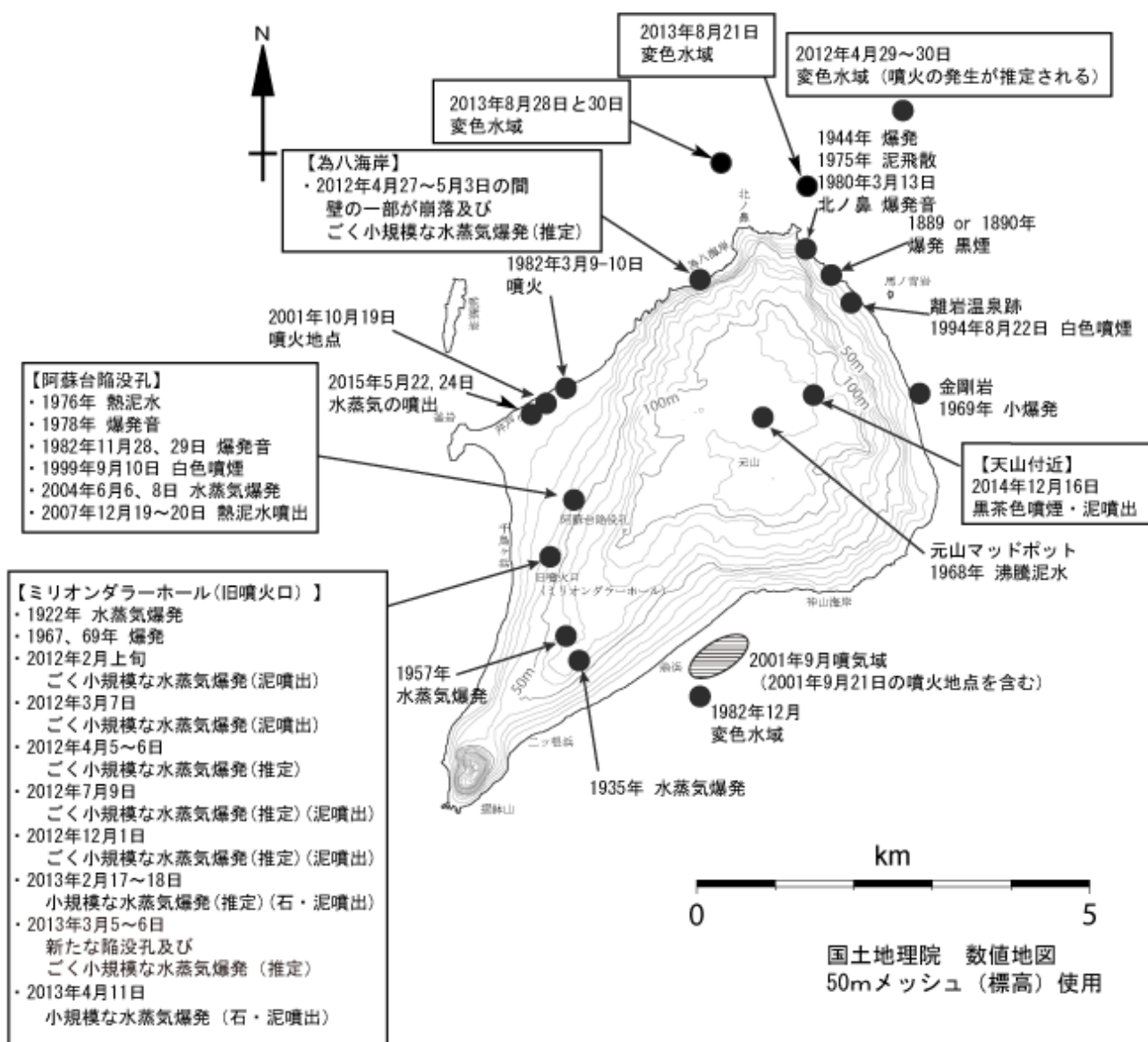
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』₁を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）硫黄島

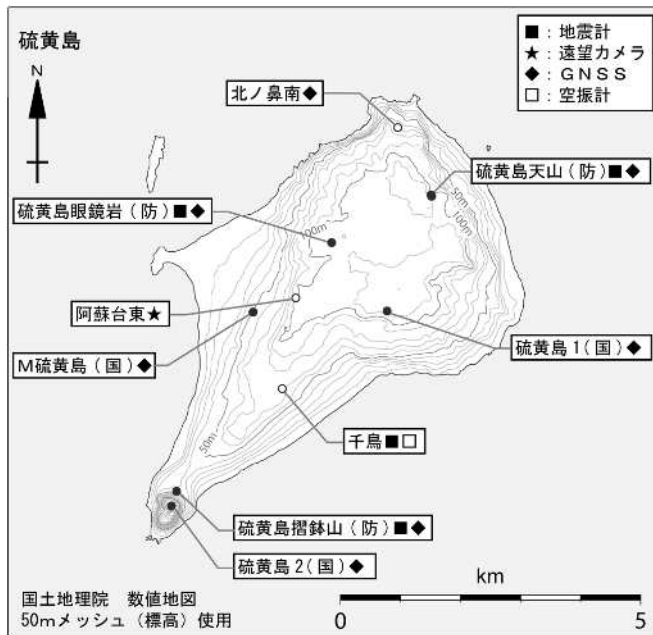
過去の火山活動との比較(図1)

硫黄島ではこれまでも1981年から1984年(防災科学技術研究所等の水準測量と三角測量による)や2001年から2002年に最大1mを超える隆起など顕著な地殻変動が観測されており、隆起が見られていた期間中の1982年と2001年には小規模な噴火が発生しています。

一方、噴火前に必ずしも地震活動が活発化するとは限らず、地震観測が開始された1976年以降で見ても、1982年11月の阿蘇台陥没孔や2001年9月の翁浜沖で発生した噴火、2012年4月29日から30日の噴火と推定される事象以外は、ほとんどの噴火で事前に地震活動の活発化が認められませんでした。

明治以降の記録に残る硫黄島の噴火はいずれも小規模な水蒸気爆発で、噴火地点は島東部の海岸付近及び井戸ヶ浜から阿蘇台陥没孔を経て千鳥ヶ原にかけての領域に集中しています。





小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所

図 2 硫黄島 観測点配置図

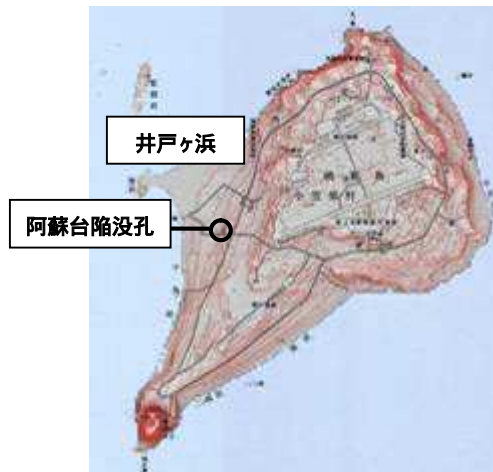


図 3 硫黄島 海岸付近の噴気の状態、阿蘇台東遠望カメラによる
 右上図：遠望観測対象地点 地形図は、日本活火山総覧（第 4 版）から引用。
 左下図：阿蘇台陥没孔の噴気の状態（5 月 27 日撮影）
 右下図：井戸ヶ浜の状況（5 月 24 日撮影） 水蒸気の噴出（内）

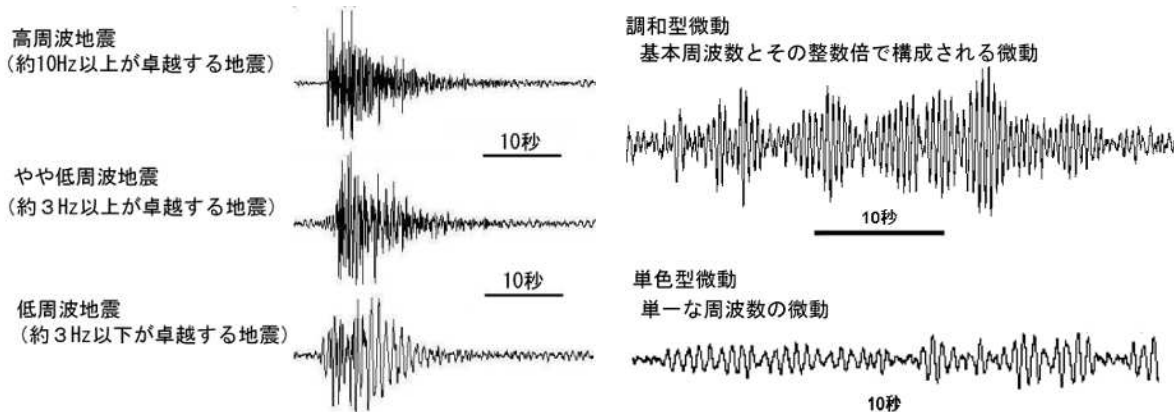


図 4 硫黄島で見られる主な火山性地震、微動（調和型、単色型）の特徴と波形例

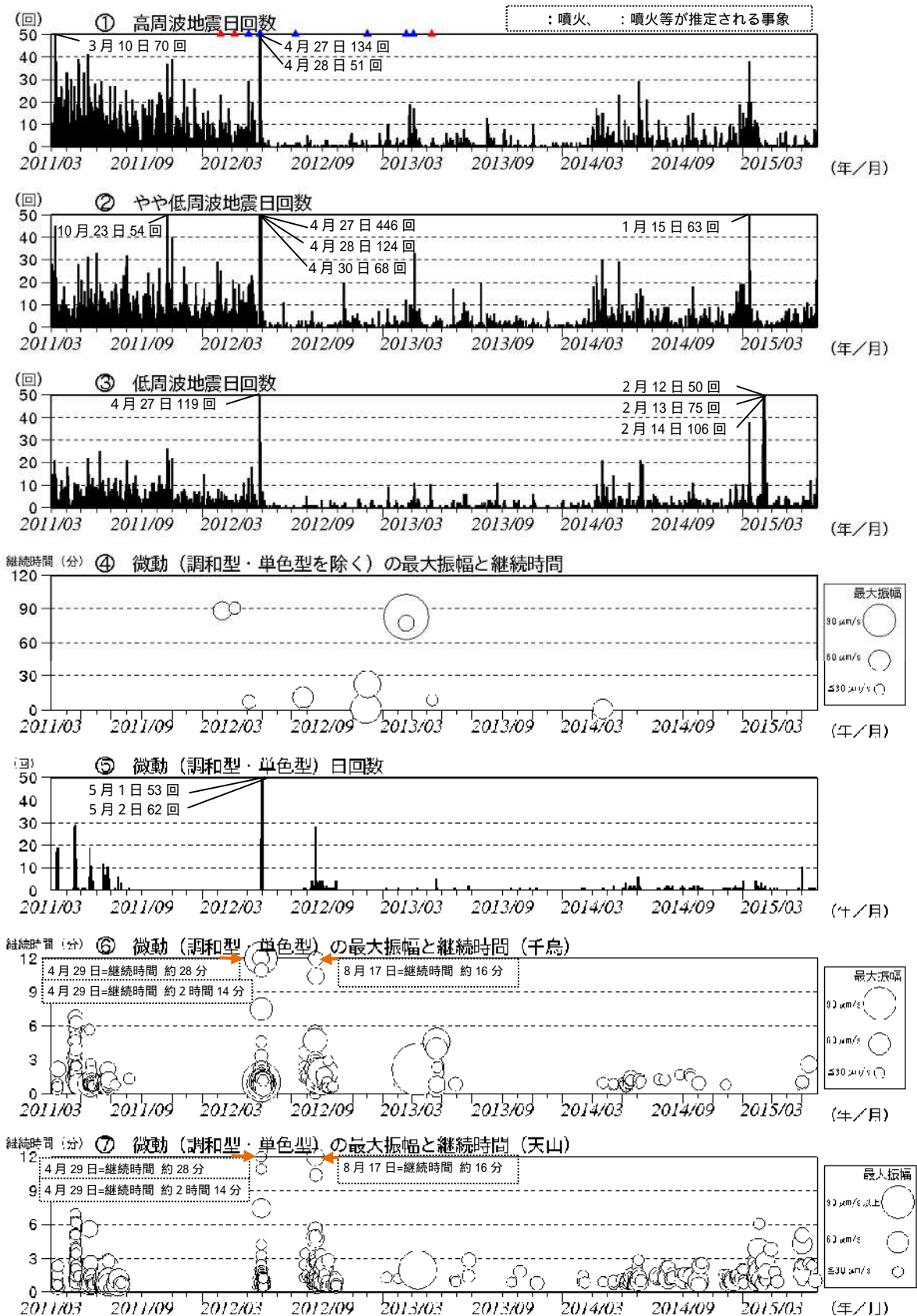


図5 硫黄島 火山活動経過図(2011年3月8日~2015年5月31日)

震動観測: 2011年3月8日運用開始

【計数基準】 2012年1月1日以降: 千鳥あるいは(防)天山で $30 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間 2.0秒以内
 2011年3月8日~12月31日: 千鳥 $30 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間 2.0秒以内、あるいは
 (防)天山 $20 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間 2.0秒以内
 (防): 独立行政法人防災科学技術研究所

- ~ 日別地震回数
- ~ 火山性微動の最大振幅と継続時間(調和型・単色型を除く)
- ~ 調和型・単色型微動の日回数、及び最大振幅と継続時間

硫黄島周辺 GNSS連続観測基線図

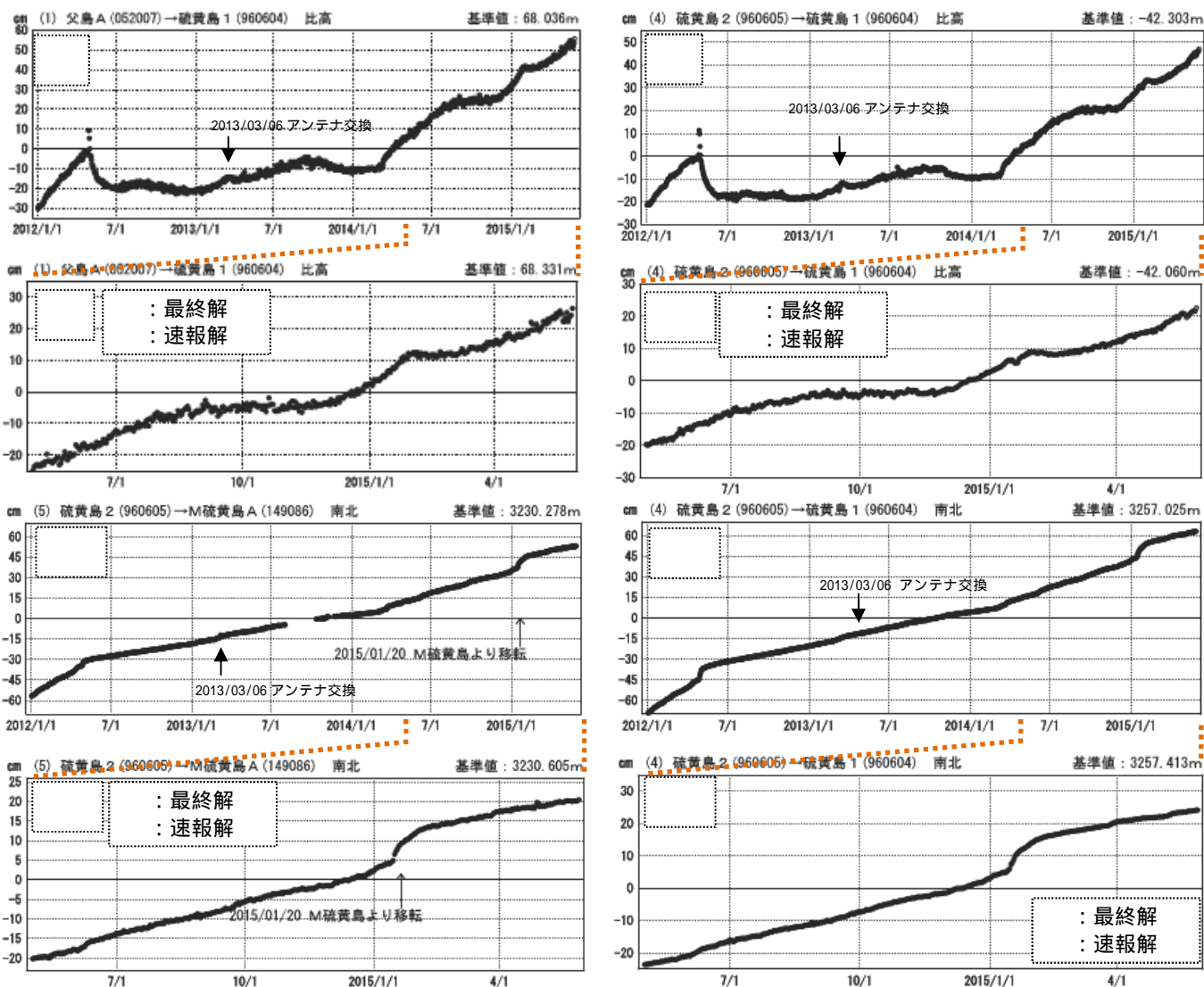
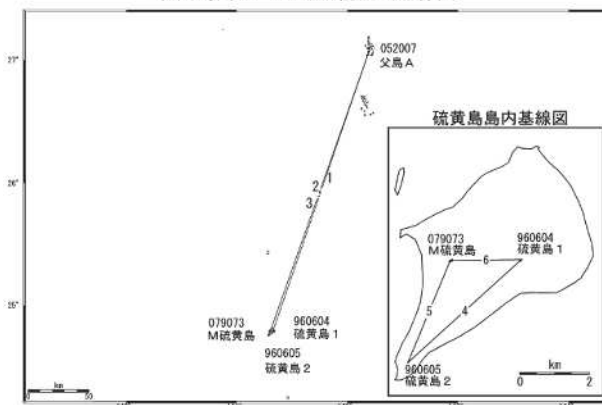


図6 硫黄島 国土地理院による地殻変動観測結果²⁾
 (2012年1月1日~2015年5月27日、 2014年5月1日~2015年5月27日)
 のグラフ: 父島に対する硫黄島1の比高の変化
 のグラフ: 硫黄島2(島西部の摺鉢山付近)に対する硫黄島1(島北部の元山地域)の比高の変化
 のグラフ: 硫黄島2に対するM硫黄島(島西部の阿蘇台陥没孔付近)の南北の変化
 のグラフ: 硫黄島2に対する硫黄島1の南北の変化

2) 最終解は国際的なGNSS観測機関(IGS)が計算したGNSS衛星の最終の軌道情報(精密暦)で解析した結果で、最も精度の高いものです。速報解は速報的な軌道情報による解析結果で、最終解に比べ精度は若干下回りますが、早期に解を得ることができます。

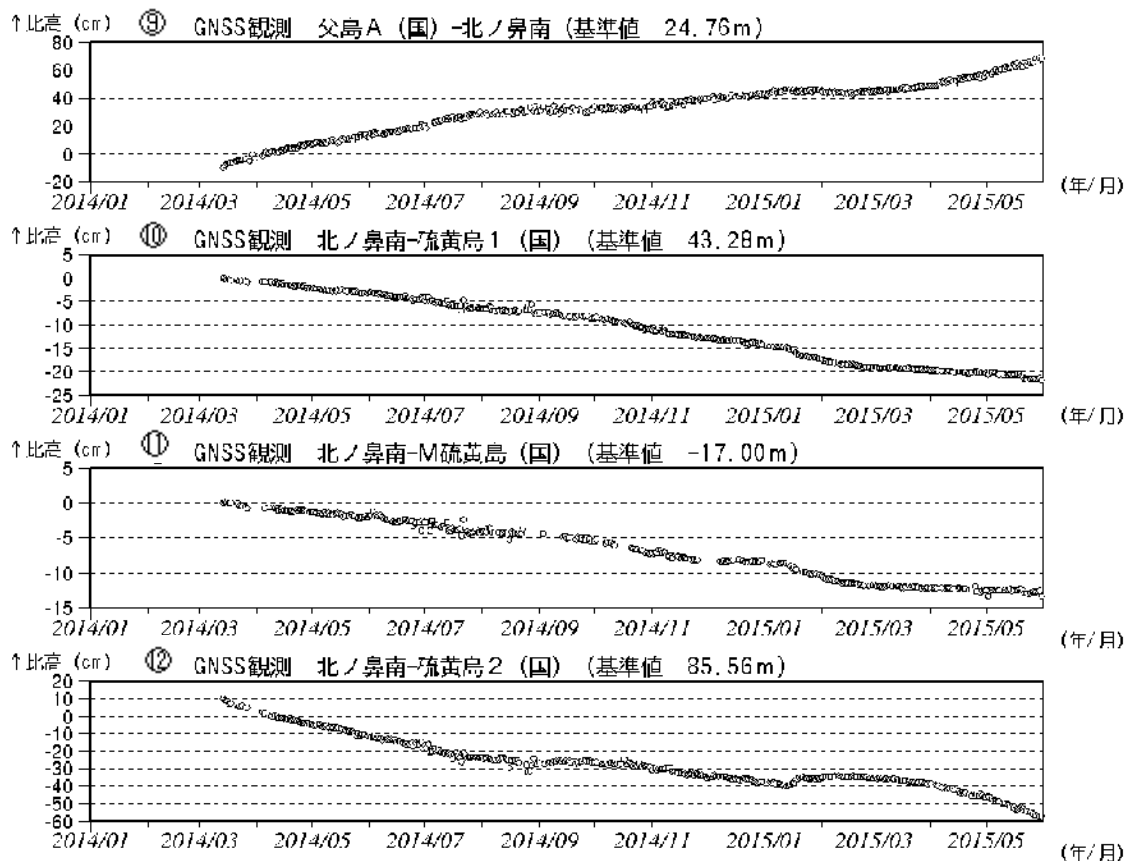


図7 硫黄島 GNSS¹⁾観測結果(2014年1月~2015年5月) (国): 国土地理院

- ・ 基線 ~ は図8の ~ に対応します。いずれの図も、左の観測点に対する右の観測点の比高(高度の差)の変化を表しています。グラフの空白部分は欠測を示します。
- ・ 北ノ鼻南観測点は2014年3月13日から観測を開始しました。
- ・ 2014年2月下旬頃から隆起の傾向、9月頃から停滞の傾向、12月上旬頃から再び隆起の傾向がみられ、2015年3月頃から隆起速度が上がっています。

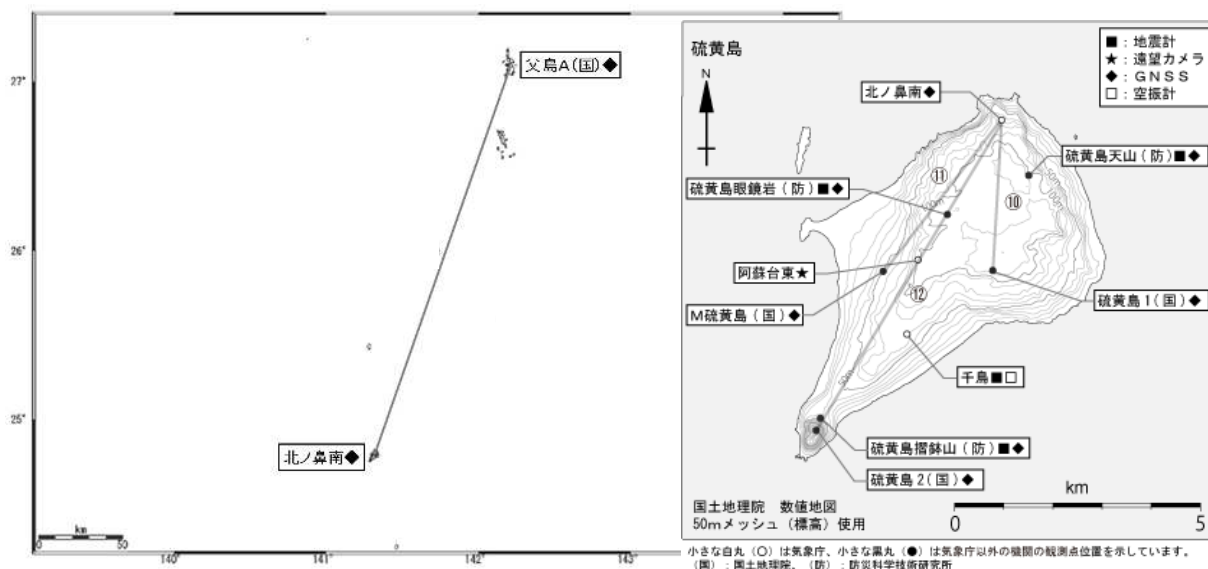


図8 硫黄島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。GNSS基線 ~ は図7の ~ に対応しています。(国): 国土地理院